

トウヒ苗木植栽試験について

1. 植栽の目的

全ての森林更新過程が損なわれた箇所（ミヤコザサ型植生）において、森林への遷移を誘導するためにコアとなる母樹群の形成を促すための試験として実施する。

2. 植栽試験の実施範囲について（図 1）

- ・ 正木峠防鹿柵No.5 と木道間の疎林部（植栽イベント実施箇所）：イベント詳細は資料 2 - 2 参照。
- ・ 正木峠防鹿柵No.5、No.6 内（大規模ササ刈り試験実施箇所）

3. 植栽に供する苗木について

- ・ 苗畑内で育成しているトウヒ苗木（平成 21 年度：1,485 本）（表 1、写真 1）のうち、高さ 50cm～1 m 程度の苗木を 900 本程度選定する。
- ・ 苗木は、100 本程度を上北山村の小中学生と実施する植栽イベント、残りの 800 本程度を正木峠防鹿柵No.5 内、No.6 内で実施する大規模ササ刈り試験実施箇所に植栽する。

表 1 苗畑内のトウヒ苗の区画番号別の苗木本数（平成 21 年度）

苗畑の 区画番号	苗木高[cm] (見当)	本数	備考
I	40 ~ 80	166	
II	70 ~ 170	156	
III	90 ~ 150	120	
IV	120 ~ 190	50	
V	110 ~ 190	229	
VI-1	120 ~ 210	49	
VI-2	60 ~ 140	45	
VII	150 ~ 290	62	
VIII		2	モニター木のみ
IX	110 ~ 160	56	
X	120 ~ 280	179	
X I	90 ~ 160	186	
X II	150 ~	175	
X III		10	モニター木 + 1本
合 計		1,485	

※密植しているため、本数については樹冠の幹先の数でカウントした。
 ※モニター木は、苗木の高さについて毎年調査を実施している。



写真1 苗畑の状況（平成22年7月14日）

4. 植栽手法について

- ・ 植栽実施時期

植栽適期である10月下旬から11月中旬とする。

- ・ 植栽の流れ

植栽については、以下の流れで実施する。

- ① 将来の樹冠を想定した植栽エリアを示した基本設計図の作成（図2、3）
- ② ササ刈りの実施（防鹿柵 No. 5、6 内は大規模ササ刈り、イベント実施箇所は、植栽箇所の坪刈り）
- ③ 防鹿柵の設置（植栽イベント実施箇所のみ）
- ④ 植栽エリアの位置修正
 - ※ 基本設計図を元に現場で日当たり、微地形、風当たり等を考慮に入れ、植栽エリアを修正する。
- ⑤ 苗畑から苗木の掘り取り
 - ※ 植栽前日もしくは当日に実施する。
- ⑥ 苗木の運搬（苗畑から正木峠）と保管
 - ※ 苗木をライフバックにまとめ運搬し、正木峠の防鹿柵内に保管する。
- ⑦ 客土の運搬
 - ※ 客土は、有機物を含まない土壌を苗木1本あたり2L程度使用する。
 - ※ 客土は、経ヶ峰付近の環境省所管地から採取する。
- ⑧ 苗木植栽箇所の掘り取り
 - ※ ミヤコザサの根系を除去し、苗木が植栽できる深さ30cm程度の穴を広めに掘る。
 - ※ 掘り採った土は、ブルーシート等にまとめておき、ミヤコザサの根系を除去する。
- ⑨ 苗木の植栽
 - ※ 日当たり、微地形、風当たり等を考慮に入れ、植栽エリア1箇所あたり5～7本程度をかためて植栽する（写真2）。
 - ※ ミヤコザサの根系が多いため、ミヤコザサの根系を除去した際に土が足りなくなる場合は、事前に運搬した客土を利用する。

※ 刈り取ったミヤコザサの稈や葉を植栽した苗木の根元にマルチングとして敷いておく。

⑩ 植栽エリアごとに植栽した苗木の位置、樹種等を記載した施工完了図の作成

※ 施工完了図は、管理台帳として利用する。



写真2 苗木の植栽状況（事前植栽試験：平成22年7月21日）

5. 植栽後のモニタリングについて

- ・ モニタリング内容

植栽試験実施箇所から30箇所程度の植栽エリアを選定し、植栽エリア内の植栽木について、個体識別を行い、樹高、根元径、葉色、衰退度、周辺のミヤコザサの稈高を計測する。

- ・ 実施時期

年1回、11月頃に実施し、植栽直後からしばらくの間、毎年実施することとする。

6. 植栽後の管理について

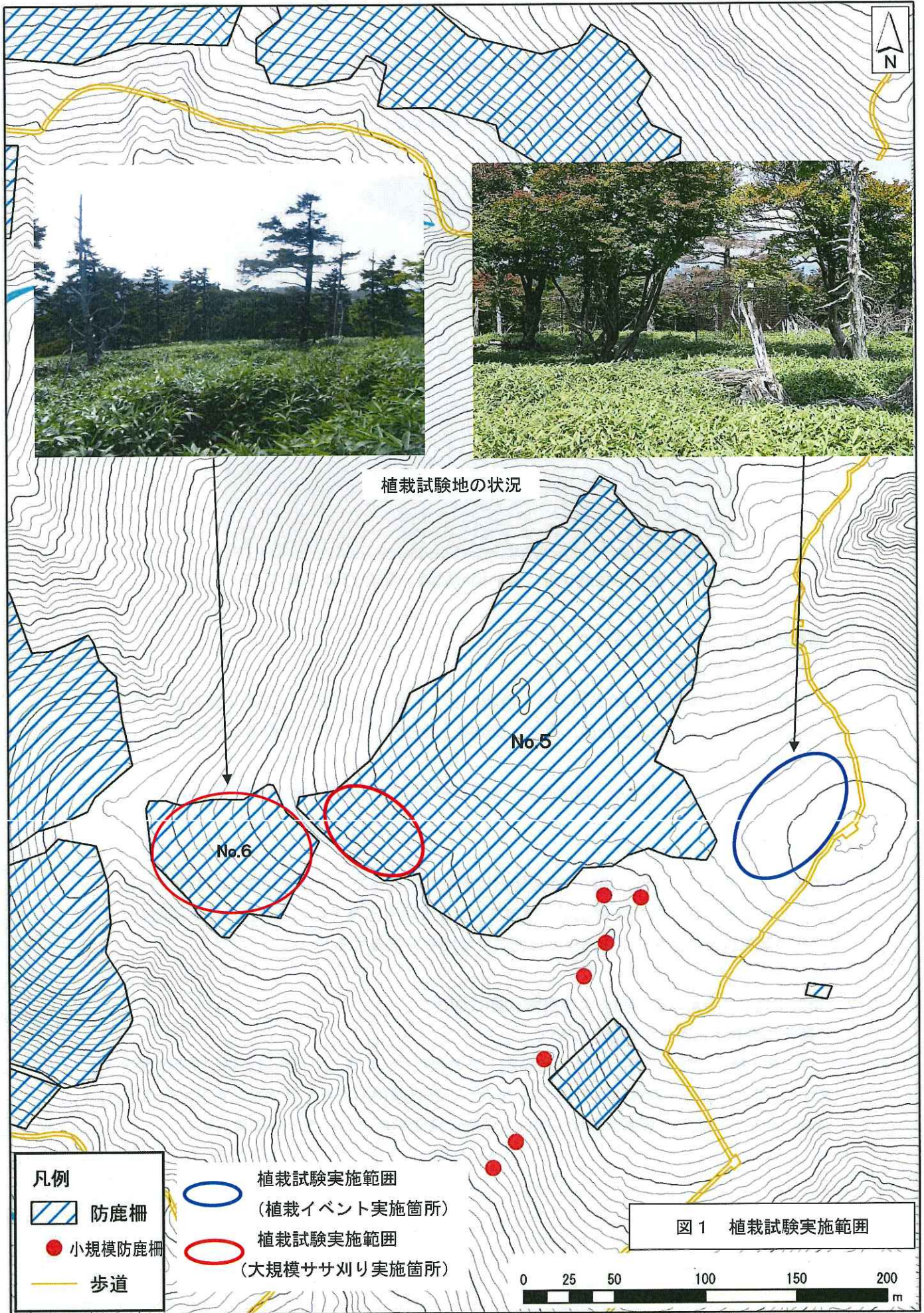
植栽後の管理については、現在、防鹿柵内に植栽している苗木の管理に準じた手法で行う。

植栽した苗木の高さの2/3程度が周囲のミヤコザサよりも高くなるように、苗木周囲のミヤコザサの繁茂状況に合わせて年1回程度周囲のササ刈りを実施する。

7. 苗畑に残存する苗木の用途および播種試験について

- ・ 苗畑に残存する苗木の用途について

今年度、植栽試験に使用しなかった苗木500本程度については、来年度以降、植栽試験を実施する。植栽試験の実施場所については、東大台の防鹿柵内のギャップ地などが考えられるが、苗木のサイズに応じて植栽試験する場所や苗畑の跡地利用について今年度検討する。



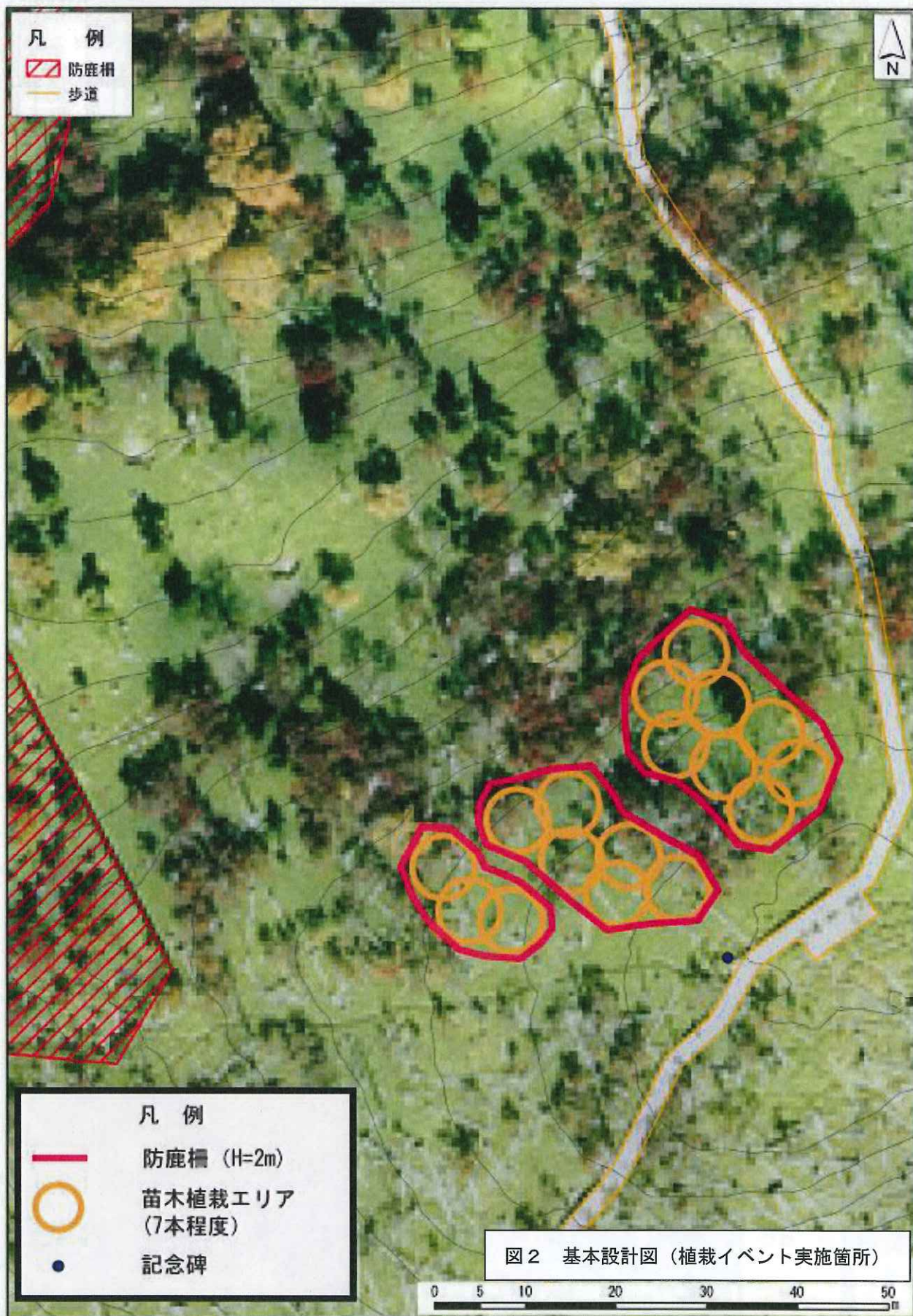


図2 基本設計図 (植栽イベント実施箇所)

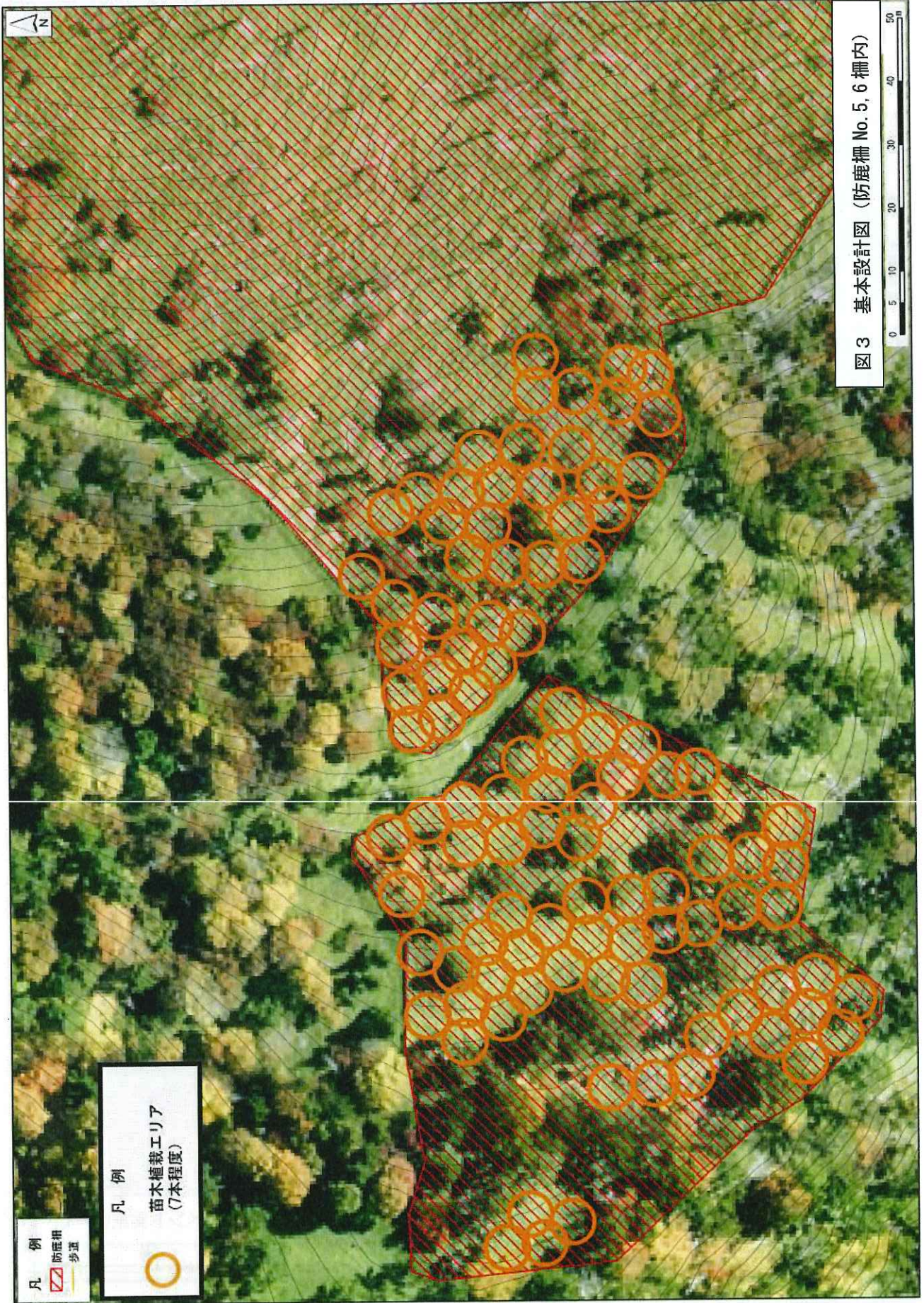


図3 基本設計図 (防鹿柵 No.5, 6 柵内)